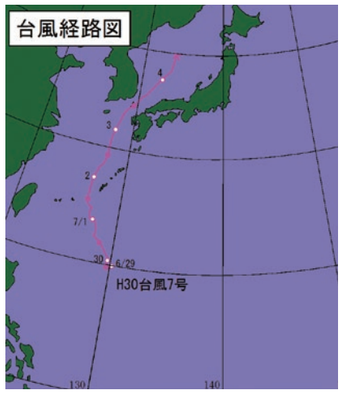
平成30年7月豪雨について

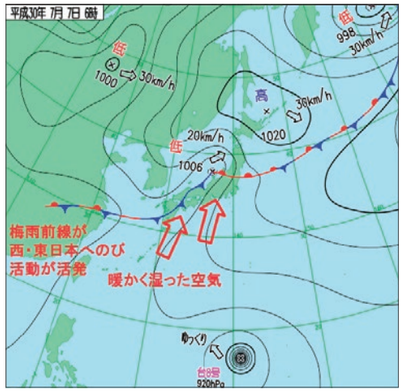
台風7号通過後、梅雨前線が活性化

- 6月29日に日本の南海上で発生した台風7号はゆっくりとした速度で進み、東シナ海を北上しながら九州北部に接近し、対馬海峡を通過した後、4日15時に日本海で温帯低気圧になりました。
- 台風7号の通過に伴い日本列島を覆っていた太平洋高気圧が南東に後退し、太平洋高気圧の影響で北海道付近に停滞していた梅雨前線が南下（5日）。そこへ台風8号から変わった温帯低気圧から暖かく湿った空気が大量に流れ込み梅雨前線の活動が活発化したことにより、9日に梅雨前線が北上して活動を弱めるまで長期にわたって西日本の広い範囲で強い雨が降り続き、今回の記録的な豪雨となりました。

■平成30年台風7号経路図



■実況天気図（平成30年7月7日6時00分時点）

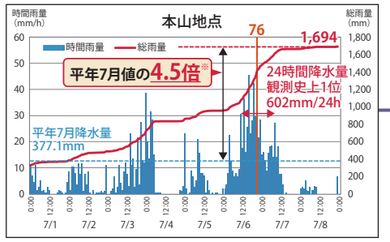


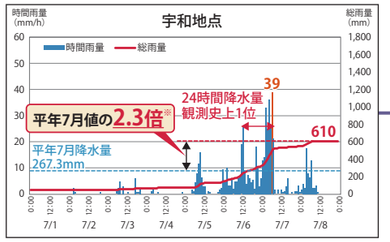
※気象庁HPを基に作成

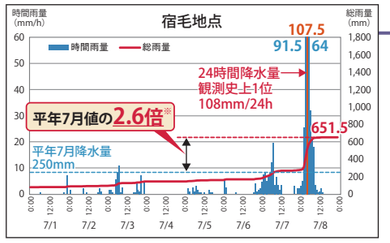
西日本の広い範囲で強い雨が降り続き、四国西南地域でも記録的豪雨に

- 前線や台風7号の影響により6月28日～7月8日にかけて、観測史上1位の期間降水量や、平年の7月の平均を大きく上回る記録的な大雨を記録しました。雨量のピークは高知県中央部から西に移動しており、四国西南地域では8日にもまとまった降水量が見られます。

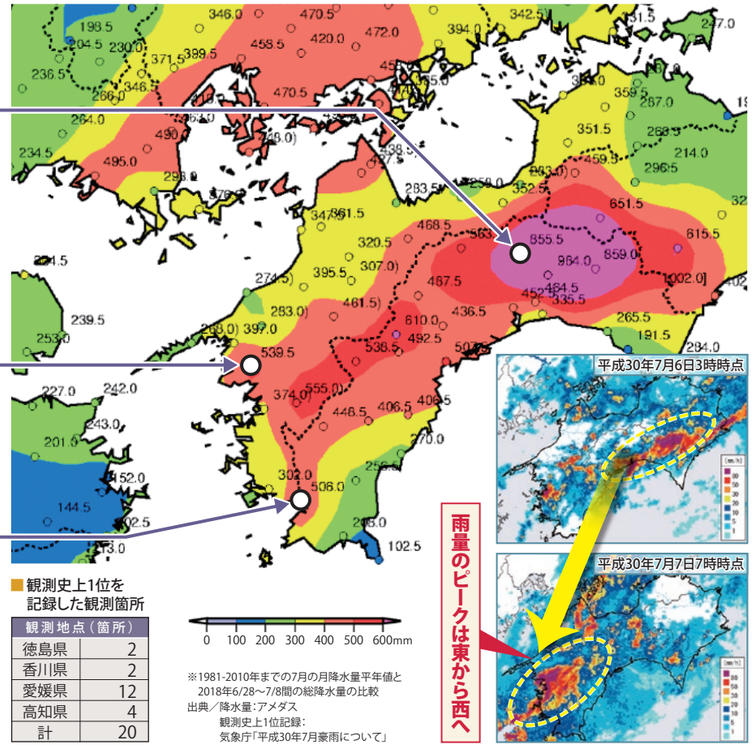
■雨量履歴







■四日間（7月5日0時～8日24時）の期間降水量（アメダスより）



※1981-2010年までの7月の月降水量平年値と2018年6/28～7/8間の総降水量の比較
出典／降水量：アメダス
観測史上1位記録：
気象庁「平成30年7月豪雨について」

■観測史上1位を記録した観測箇所

観測地点（箇所）	
徳島県	2
香川県	2
愛媛県	12
高知県	4
計	20

四国管内では、四国南西部を中心に被害が発生

■平成30年7月豪雨　四国管内の主な被害

■被災状況　（H30.7.25時点）

道路	
高速道路	5箇所
直轄国道	7箇所
補助国道	30箇所
県道	117箇所
計	159箇所

河川管理施設	
直轄河川	36箇所
補助河川	53箇所
計	89箇所

土砂災害	
被災箇所	224箇所
計	224箇所

■事前通行規制による通行止め（直轄国道）

総延長	今回の規制実施区間及び延長	
129km	②～⑩	104.2km（80.8%）

■災害も含めた通行止め

管理主体	総延長	今回の規制実施延長
高速道路	694.3km	396.6km（57.1%）
直轄国道	1,192.6km	128.2km（10.7%）

※通行止め状況は延べ通行規制